

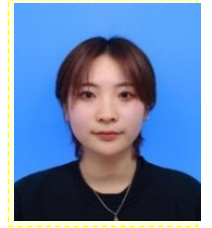
いつか見えなくなるまえに

ーテリトリーオに基づいた地域の価値の継承ー

Keywords

食 風景 テリトリーオ
地域活性 農業 高齢者施設

DZ21205 樋口 瑛



1. はじめに

近代化により流通技術や冷凍技術が向上したことで、地域内の資源に頼らずとも、各地の食材がどこでも手に入り、食べられる現代社会において、地域内の食と人々の生活のつながりが減ってきている。

以前、南イタリアのオストゥーニという町に滞在した際、市街地を中心に農地が広がる町の風景の美しさと、地元の食と人々の生活のつながりを強く感じた。町の人々は地元の食や風景への誇りをもっており、大切にしていた。食の均一化が進んだ現代の日本においては、農地に触れる機会が少ない市街地に暮らす人々が、地元の食材や、それに伴う風景を地域内で共有していると意識することは、減ってきているのではないかと考える。

2. 研究背景

2.1 イタリアのテリトリーオ

(1) テリトリーオについて

土地の持つ自然条件を生かしながら展開してきた人間の多様な営みに歴史や伝統が蓄積されることで生まれたアイデンティティを共有する空間の広がりやをイタリアではテリトリーオという。南イタリアを訪れた際に感じた町の中のつながりは、テリトリーオの概念の定着によって生まれている。

(2) 地元の食・風景によって定着するテリトリーオ

土地の気候、風土にあった人々の営みによって生まれる風景とともに食に触れる経験は、食のありがたみや生産の背景、風景の重要性を再確認する機会をつくる。

イタリアの小都市は、敵から守るために、丘の上に大きな壁で囲われるように市街地が形成され、その周りに田園が広がっている。人々の生活動線から田園風景を望めることで、風景の美しさを再認識し、地域への愛着を深めている。さらに、市街地では積極的な地産地消により、地域経済を支え、住民同士のつながりをつくっている。

このような生活動線と風景の関係や、生活の中の地産地消が地元の食や風景、文化への誇りとなり、テリトリーオの定着につながっていると考える。



写真1 市街地から見える田園風景



写真2 週1の市場

2.2 日本の地域における食と人々の生活のつながり

イタリアは、日本と同時期に高度経済成長期による大都市の工業化の影響で地方の過疎化が起きたが、現在ではテリトリーオの文化が根付き、小都市国家となっている。日本と類似した工業化の影響があったなかで、イタリアと日本の食と人々の生活の違いは、田園や農地と市街地にあたる生活圏の地理的関係だと考える。イタリアは市街地の周りに田園や農地が広がり、生活圏と密接している。一方、日本では、都市開発により田園や農地と生活圏が離れてしまっている。そのため、市街地に暮らす人々が地元の風景とそこから生まれる食材への価値に関心を持たなくなってきたと考える。

3. 研究目的

食の均一化や、市街地に暮らす人々の生活動線と農地の関わりが少ない現代の日本において、「地域のアイデンティティを共有しているという意識」を地域全体に広げるきっかけとなる建築を目指す。

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

対象敷地は神奈川県三浦市南下浦町毘沙門に位置する岩堂山の麓を主な敷地とする。三浦市は、三浦半島の先端に位置し、黒潮の影響で温暖な気候に恵まれており、農業と漁業が盛んである。台地状の丘陵地が連なる地形の多くが農地として利用されている。

岩堂山は、市街地と農村の間に位置しており、古くから周辺の人々から利用されてきた場所である。しかし、現在多くの不法投棄が見られ、住民の地域のアイデンティティへの関心の薄れが見られる。



図表 1 三浦市南部 (google earthより作成)

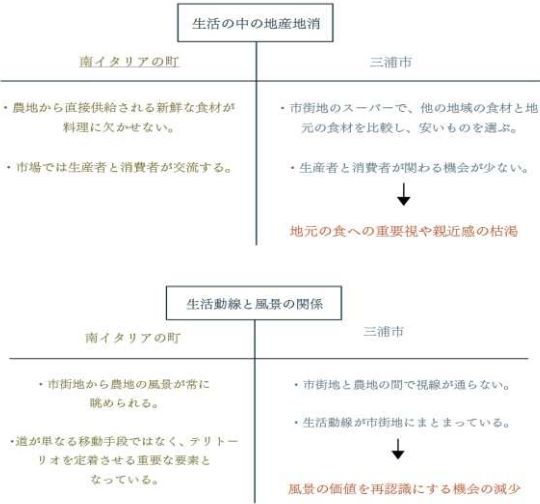


写真 3, 4 岩堂山でみられた不法投棄

4.2 南イタリアの町と三浦市の比較

南イタリアの町と三浦市には、農業が盛んであり、農地や自然の風景の美しさが広がっているという共通点がある。しかし、三浦市では、地域のアイデンティティを共有しているという意識が見られない。

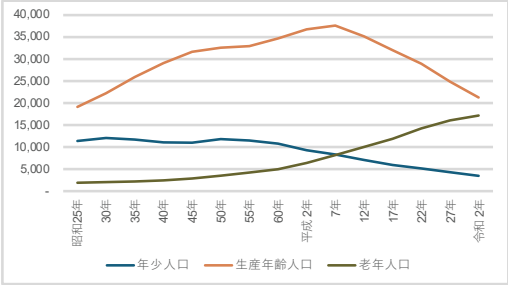
【生活の中の地産地消】と【生活動線と風景の関係】について、南イタリアと三浦市を比較した際、【地元の食への重要視や親近感】と【風景の価値を再認識にする機会】の枯渇が見られた。



図表 2 南イタリアと三浦市の比較

4.3 三浦市における人口推移

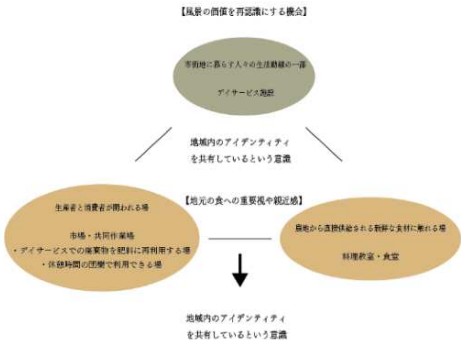
老年人口が増加しているのに対し、年少人口と生産年齢人口の減少がみられる。(図表4) 年少人口と生産年齢人口が減少することで、高齢者の介護や健康維持を家族で負担することが難しくなる。そのため、地域全体でのネットワークを構築し、高齢者が安心して生活できる体制を整えることが重要である。



図表 3 三浦市における人口推移
(三浦市ホームページより作成)

5. 設計提案

三浦市におけるテリトリーを定着させるために、農地から直接供給される新鮮な食材に触れる場と、生産者と消費者が関わる場を設けることで、【地元の食への誇りや親近感】を構築する。また、市街地に暮らす人々



の生活動線の一部を農地に入れることで、【風景の価値を再認識にする機会】を増やす。

図表 4 機能と目的

6. おわりに

利用者ひとりひとりに【地元の食への重要視や親近感】と【風景の価値を再認識にする機会】を与える建築を提案する。さらに、この建築が「地域のアイデンティティを共有しているという意識」を地域全体に広げるきっかけになることを目指す。

7. 参考文献

『イタリアのテリトリー戦略』 木村純子・陣内秀信
三浦市の人口推移データ 三浦市ホームページ
[人口推移・男女別人口／三浦市](#)

イタリアでは、『土地の持つ自然条件を生かしながら展開してきた人間の多様な営みに歴史や伝統が蓄積されることで生まれたアイデンティティを共有する空間の広がり』というテリトリーオの概念によって、まちのなかの人々の生活と食と風景のつながりが生まれている。

本設計では、神奈川県三浦市におけるテリトリーオの定着のきっかけとなる建築として、【風景の価値を再認識する機会】【地元の食への誇りや親近感】を住民に与える場を提案する。

設計手法

「体感することで得る風景の細かい要素」

市街地に暮らす人々が見落としてしまいがちな風景を、建築の中で普段とは違った立場から体感することで、認識しやすくする。

